

大阪府立信太高等学校 令和7年度学校教育自己診断報告

信太高校 首席

＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

＜ 実施時期 ＞

令和7年11月17日～令和8年1月7日

＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等を開示

＜ 回答数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	544名	598名	91.0%（+5.5）
保護者	197名	598名	32.9%（-10.3）
教職員	51名	51名	100%（±0）

※令和7年度は保護者の回答方法をWEB上のアンケートシステムで回答する形で実施。

＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。

報告書では各設問を、

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 学校運営・環境 | 2. 教育相談・人権 | 3. 学校生活 |
| 4. 学習・体験 | 5. 進路指導・生徒指導 | 6. 特別活動・その他 |

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A＋B の％』です。

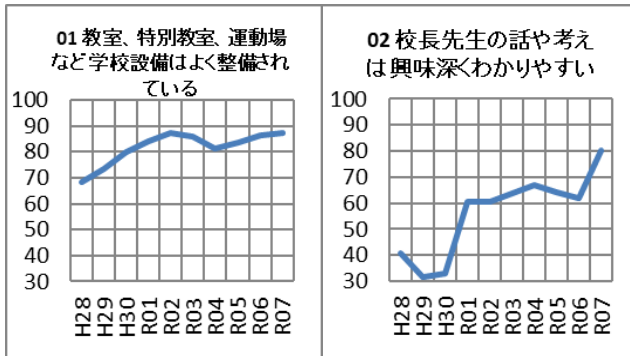
1. 学校運営・環境

<評価>

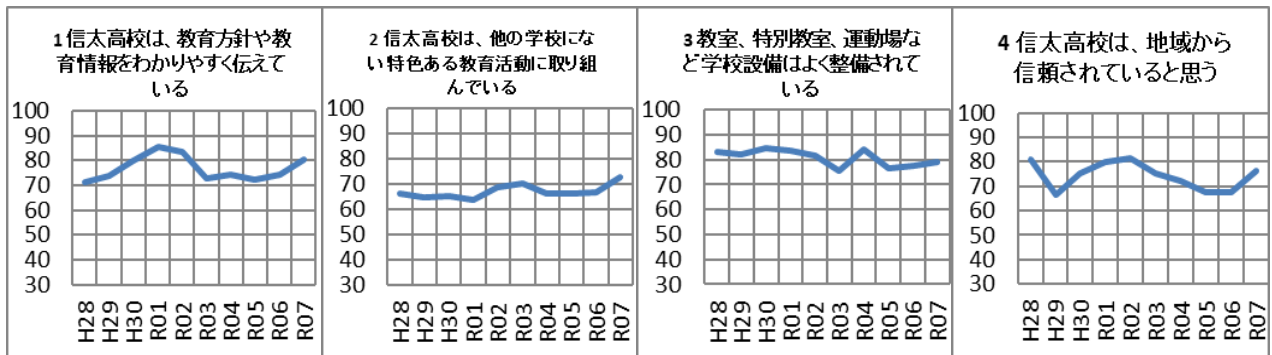
生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

現1年生 (1回 41.4%・2回 6.2%・3回以上 3.6%) 計 51.2%

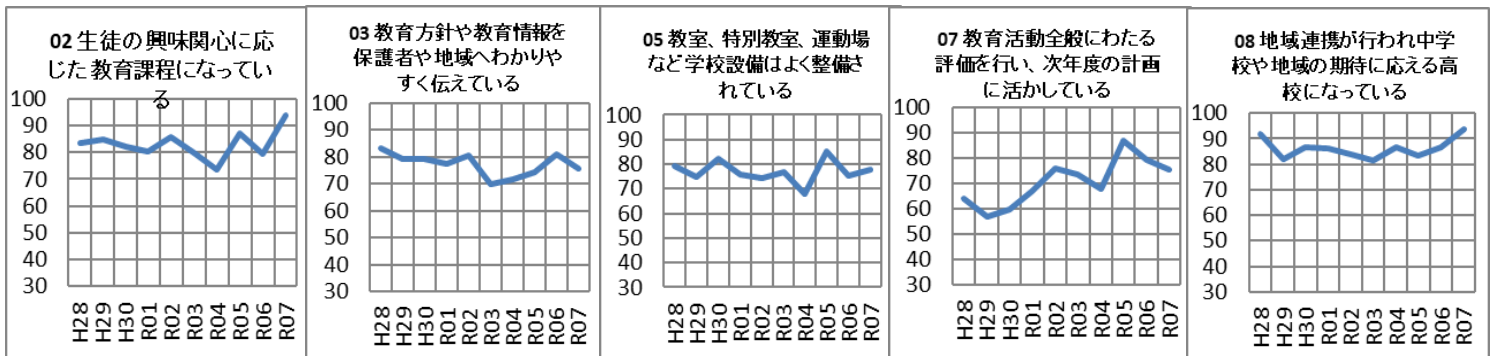
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 87.3%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 80.0%



- 保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 80.2%
- ・信太高校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 72.6%
 - ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 79.2%
 - ・信太高校は、地域から信頼されていると思う 76.2%



- 教職員・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 93.8%
- ・教育方針や教育情報を保護者や地域へわかりやすく伝えている 75.5%
 - ・教室、特別教室、運動場など学校設備はよく整備されている 77.6%
 - ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている 75.5%
 - ・地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校になっている 93.9%



<分析>

◇学校設備について整備できていると捉えているのは、生徒・保護者・教員ともに 75%を超えており、生徒や教員の1人1台端末の使用やネットワークの無線化などの ICT 環境をはじめとして、特別教室や運動場、トイレなどの学校設備において、様々な形で生徒の教育活動が行うことができる環境が整っていると考えられる。

◇興味に応じた教育課程（教員）について、過去最高の 93.8%となった。R4 年度入学生から新教育課程がスタートし、その後3年をかけて、より生徒にあったカリキュラムになるように検討が重ねられて現在の教育課程が完成した。そのような経緯もあり、教員からの信頼が高い教育課程となっていると考えられる。また、教育活動の特色（保護者）についても過去最高の 72.6%となった。スポーツコースや共生推進教室など本校独自の教育活動について、保護者によく理解していただいている結果だと考えられる。そして、生徒からの評価については、すべての項目で過去最高となった。

◇信太高校の地域からの信頼や期待についての項目について、保護者、教員ともに増加している。教員については過去最高の 93.9%となった。保護者については近年、低い値が続いていたが、SNS 等を利用して学校の取り組み（地域への活動等）を発信していることで、学校の様子を知ってもらうことができ、地域の期待に応える高校になっていることを見てもらうことが出来ているのだと考えられる。

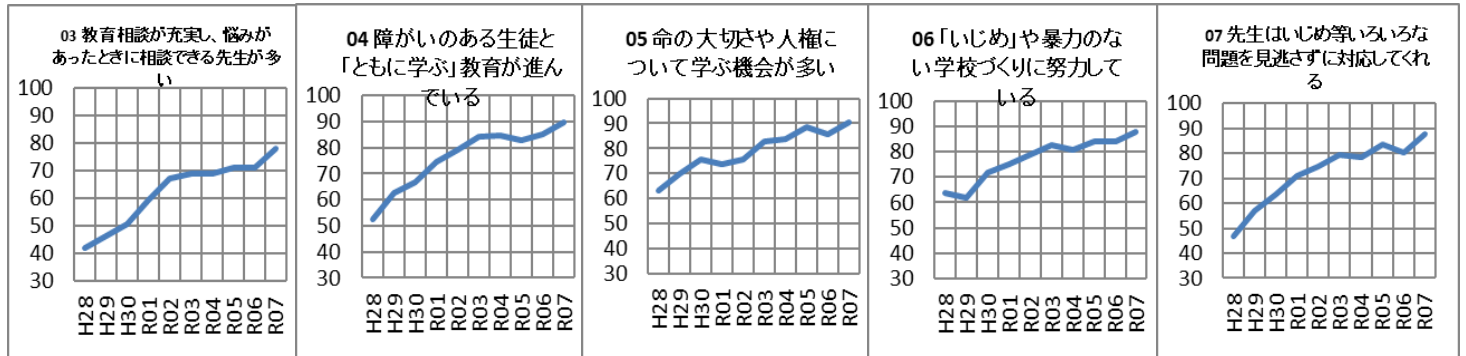
<重点目標>

教員の値については、昨年が高かったこともあり、複数の項目で減少となってしまったが、保護者・生徒の項目については、すべての項目において増加した。以前は、保護者の評価が低く、学校の情報発信の方法の未熟さが考えられていたが、近年の SNS の活用で、学校の情報をわかりやすく学校外へ発信することができていると考えられる。教員については、減少する項目はあったものの、すべてにおいて、高い水準を保っているため、現状維持できるように、今後も学校の方向性を整理し、「どのような方向性で、なにに取り組んでいくか」の情報をわかりやすく学校外へ発信していきたい。

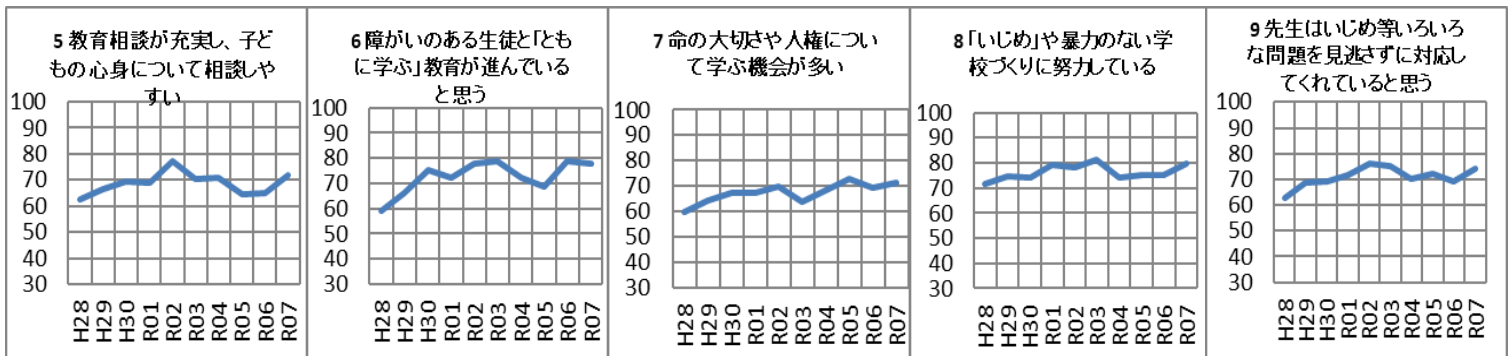
2. 教育相談・人権

<評価>

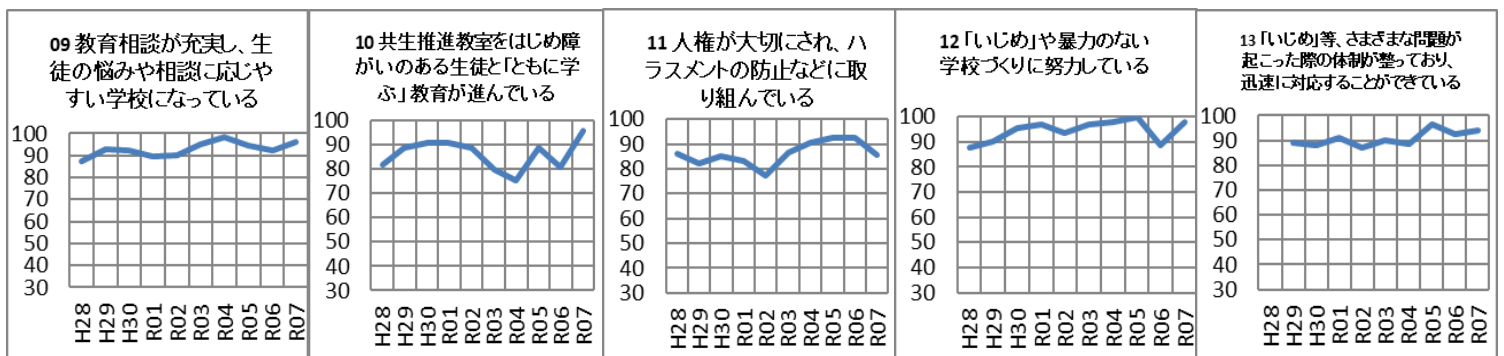
生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い	78.2%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	89.9%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	90.3%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	87.9%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる	87.5%



保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい	72.1%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う	77.6%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	71.6%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	79.7%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う	74.1%



教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている	95.9%
・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	95.9%
・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる	85.7%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	97.9%
・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている	93.9%



<分析>

◇生徒について、ほとんどの項目が 85%以上の高い値となっており、すべての項目が過去最高の値となった。スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の来校や居場所カフェの実施がより充実し、生徒のニーズを満たしていることがわかる。これからも SC・SSW に繋げる最初として教員に相談しやすい環境を作っていく必要がある。

◇いじめや暴力、問題の対応についての項目は生徒・保護者・教員すべてにおいて増加しており、生徒・教員においては 80%を超える高い値であった。いじめに関しては、年 3 回のアンケートを実施し、その結果から担任などからの聞き取りの実施など、学校としていじめは決して許さないという姿勢が伝わっているものと考えられる。

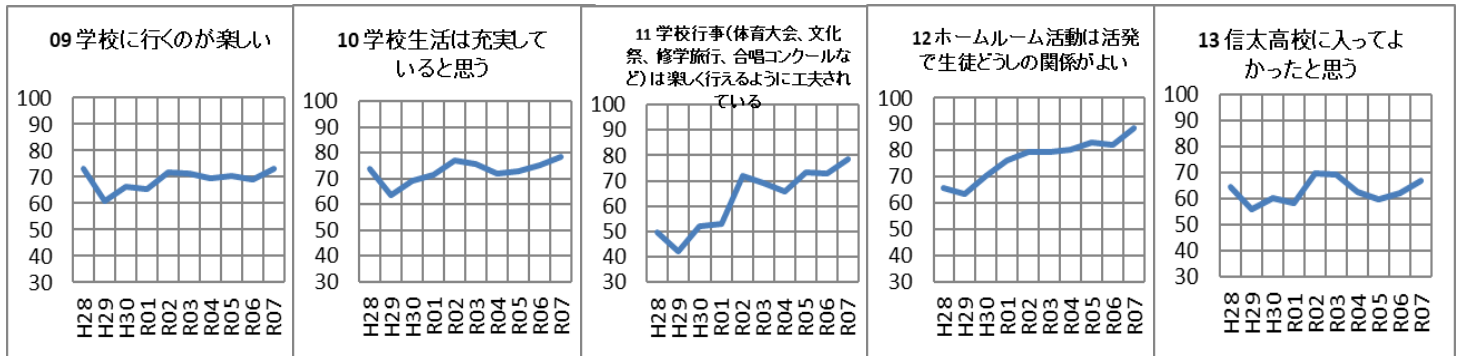
<重点目標>

教育支援・教育相談体制については、昨年度同様、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校作りに努めていることから、一定数の肯定的回答が見られる。教育相談では、保護者が相談しやすい体制を整えていく必要はあるが、全体的な方向性はそのまま、さらに相談しやすい雰囲気づくりなどを意識していく。

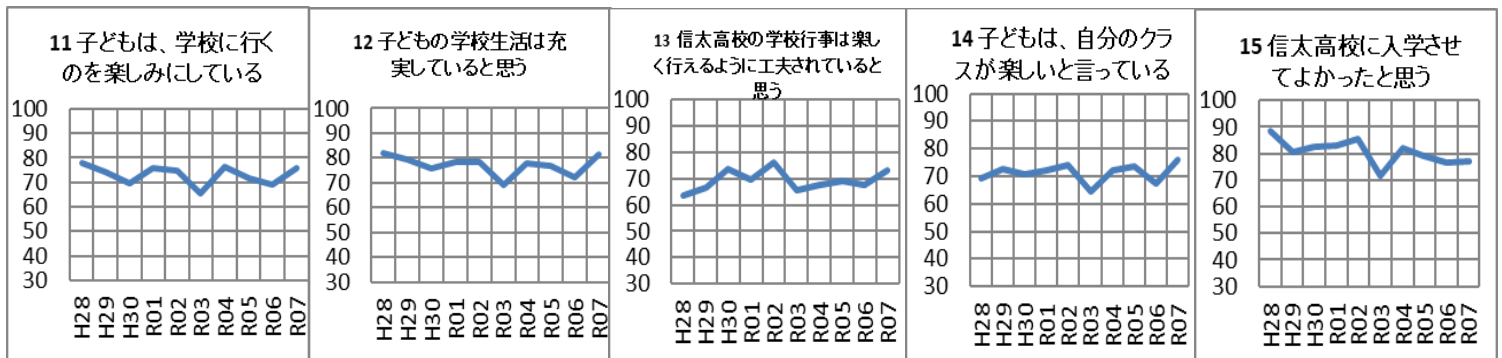
3. 学校生活

<評価>

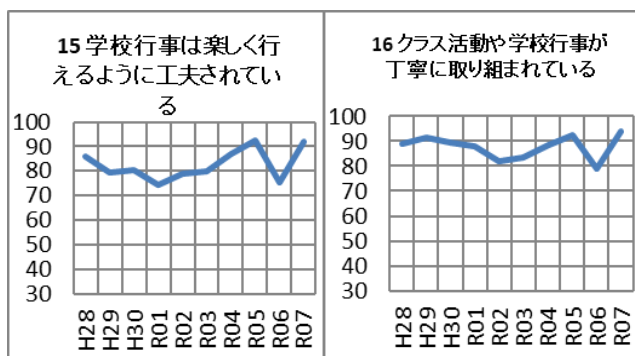
- 生徒・学校に行くのが楽しい 73.3%
- ・学校生活は充実していると思う 78.7%
- ・学校行事（体育大会、文化祭、修学旅行、合唱コンクールなど）は楽しく行えるように工夫されている 78.3%
- ・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい 88.6%
- ・信太高校に入ってよかったと思う 67.1%



- 保護者・子どもは、学校に行くのを楽しみにしている 75.6%
- ・子どもの学校生活は充実していると思う 81.7%
- ・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う 73.1%
- ・子どもは、自分のクラスが楽しいと言っている 76.1%
- ・信太高校に入学させてよかったと思う 77.1%



- 教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 91.9%
- ・クラス活動や学校行事が丁寧に取組まれている 93.9%



<分析>

◇生徒・保護者・教員すべての項目で増加している。生徒では、「信太高校に入ってよかったと思う」以外の4項目が過去最高となっている。また、生徒の「学校行くのが楽しい」は10年ぶりに過去最高を更新した。「学校に行くのが楽しい」「学校生活は充実していると思う」の項目は学年が上がるにしたがって上昇している。保護者の「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」「子どもの学校生活は充実していると思う」「信太高校に入学させてよかったと思う」は3年ぶりに上昇した。教員は昨年度から10%以上増加している。学校行事やクラスの活動など、生徒が主体的に取り組むことができるように、準備されていることがうかがえる。

<重点目標>

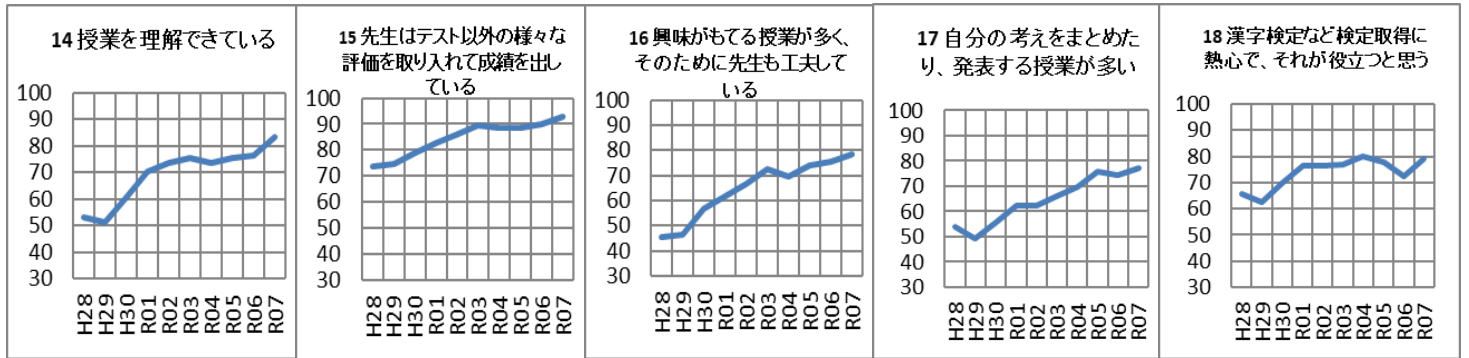
今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにしていくことが重要である。

すべての項目で上昇しているが、生徒の「信太高校に入ってよかったと思う」はほかの項目と比べて低い。また、「信太高校に入ってよかったと思う」(生徒)「信太高校に入学させてよかったと思う」(保護者)では、生徒が保護者から10%低い。生徒と保護者の差は昨年度は14.3%だったため、4.3%少なくなっているが、生徒に学校行事以外の点からも、信太高校で学ぶことの良さや魅力を伝えていく必要がある。

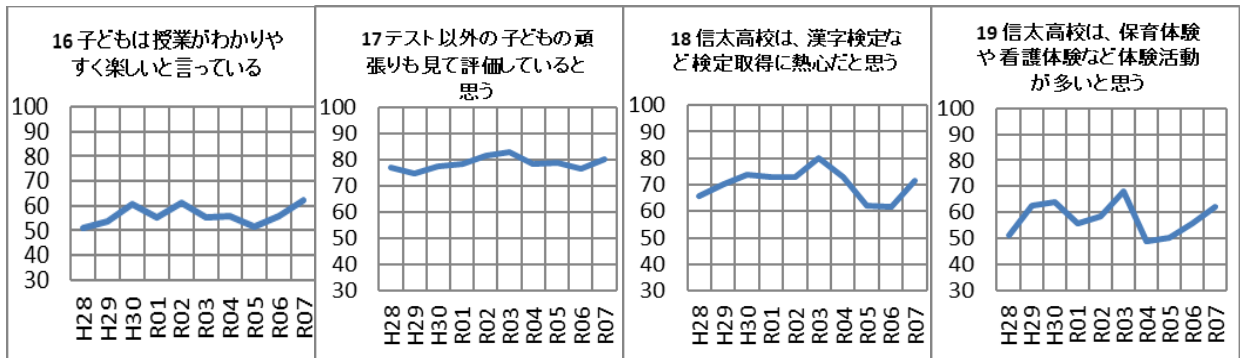
4. 学習・体験

<評価>

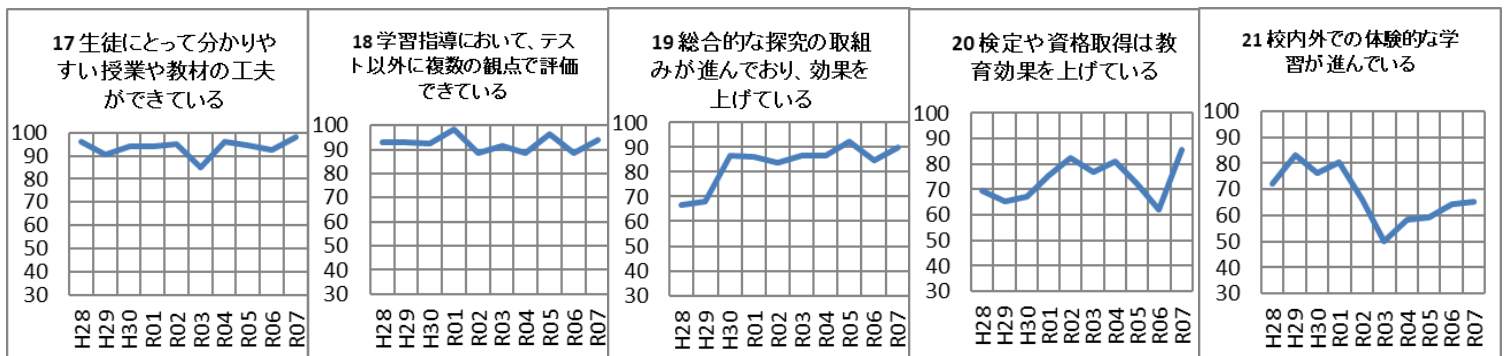
生徒・授業を理解できている	(3年 87.0% 2年 77.6% 1年 85.8%)	全学年	83.1%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			92.8%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			78.5%
・自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い			77.2%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			79.2%



保護者・子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている			62.5%
・テスト以外の子どもの頑張りも見て評価していると思う			80.2%
・信太高校は、漢字検定など検定取得に熱心だと思う			71.6%
・信太高校は、保育体験や看護体験など体験活動が多いと思う			61.9%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができている			97.9%
・学習指導において、テスト以外に複数の観点で評価できている			93.8%
・総合的な探究の取組みが進んでおり、効果を上げている			89.8%
・検定や資格取得は教育効果を上げている			85.7%
・校内外での体験的な学習が進んでいる			65.3%



<分析>

- ◇全生徒の回答として、すべての項目で昨年度よりも肯定的な意見が増加しており、7つの項目で過去最高の数値となった。「先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」の項目では、92.8%で非常に高い値となっている。また、「授業を理解できている」という項目も、アンケートを始めた頃（H27）は59.5%だったのが、今年度は83.1%となっており、長い期間をかけて高い値へと変化していることがわかる。「興味もてる授業が多く、そのために先生も工夫してる」の項目が78.5%と高い値であることからわかるように、長い期間をかけて、さらに工夫がされてきた事がわかる。
- ◇教員の回答は、すべてにおいて肯定的な意見が増加している。しかし、「校内外での体験的な学習が進んでいる」の項目については、昨年度よりは増えているものの、R2年度に低い値になって以降、R1年度以前の水準には戻っていない。
- ◇検定試験への学校の取り組みについては、教員・生徒・保護者ともに増加となっており、保護者は昨年度に比べて10%近く増加した。また、教員については過去最高の値となった。
- ◇「授業を理解できている」という項目で、生徒で過去最高の83.1%となり、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」の項目の保護者の回答も、過去最高の値となっている。教員の「生徒にとってわかりやすい工夫ができている」の項目が97.9%と非常に高い値であることからわかるように、教員と生徒のお互いにとって良い学習環境が形成されていると考えられる。

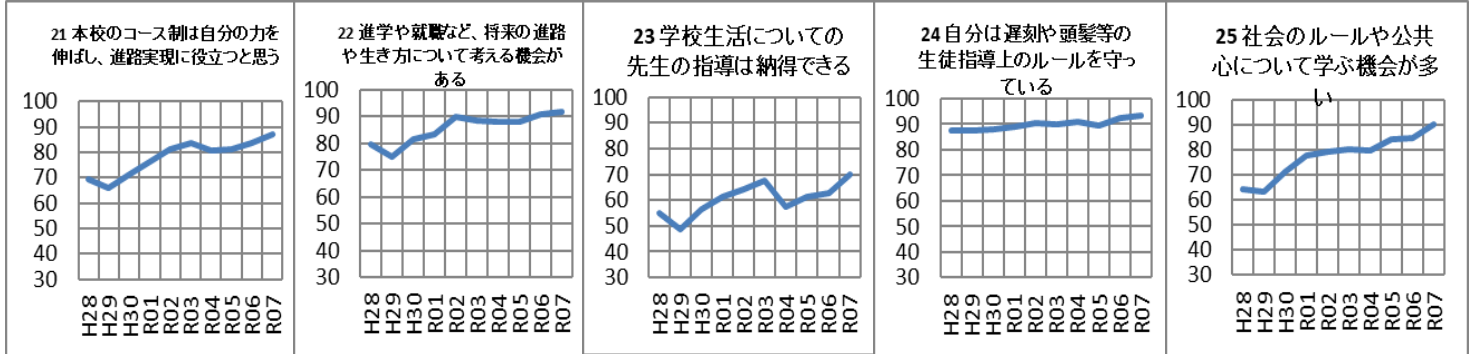
<重点目標>

「体験」にかかわるような項目が60%台にとどまっているが、その他のほとんどの項目が80%という高い値ではあるので、このままキープできるようにしていきたい。体験学習については、コロナ禍の影響によって実施が難しかったことが影響していると考えられるが、今後、増加していくことを、生徒や保護者からも期待されていることがうかがえる。

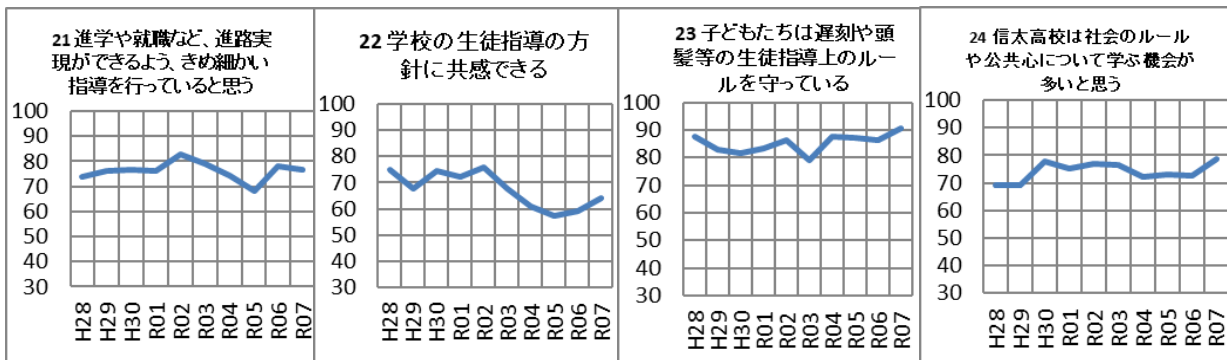
5. 進路指導・生徒指導

<評価>

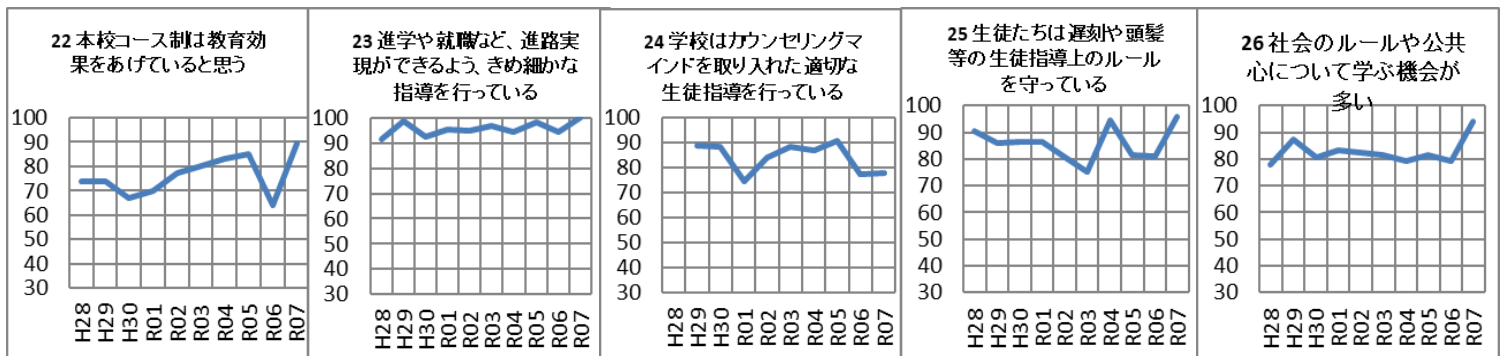
- 生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う 87.1%
- ・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある 91.6%
- ・学校生活についての先生の指導は納得できる 69.9%
- ・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 93.4%
- ・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い 90.5%



- 保護者・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う 76.7%
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる 64.0%
- ・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 90.8%
- ・学校は社会のルールや公共心について学ぶ機会が多いと思う 78.7%



- 教職員・本校コース制は教育効果をあげていると思う 89.7%
- ・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かな指導を行っている 100%
- ・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている 77.6%
- ・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 95.9%
- ・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い 93.9%



【進路指導分野】

<分析>

◇進路分野においては学校全体で取り組んでいることもあり、生徒・教員とも数値としては 80%を超える数値となっている。生徒の「進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目では3学年では3年生がもっとも高く 94.4%であるが、1・2年生も 90%を超えており、3学年すべてにおいて高い数値となっている。

◇生徒の「本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う」は3年連続上昇しており、過去最高となった。教員の「本校のコース制は教育効果をあげていると思う」は 25.5%増加した。昨年度カリキュラムを変更したが、2年生3年生は旧カリキュラムのままであるが、昨年度の状況をふまえて、生徒のコース選択の際に担任、教務部、教科、さまざまな先生がよりミスマッチの少ない方向に生徒を導いていた結果が表れている。

<重点目標>

「進路実現ができるよう、きめ細やかな指導をおこなっている」の項目では教員は 100%と非常に高い数値となっているが、保護者は 76.7%となっており、差が 23.3%ある。昨年度の差が 16.3%であり、より差が開いている。進路行事や校外での体験行事の取組みを保護者にも伝わる形で発信していく必要がある。

【生徒指導分野】

<分析>

◇「生徒指導上のルールを守っている」では、生徒、保護者、教員すべてで 90%を超えている。保護者が 90%を超えたのはアンケートを始めた頃（H27）以降初めてである。

◇保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる」は2年連続で上昇している。生徒の「学校生活についての先生の指導は納得できる」は3年連続で上昇しており、過去最高となった。生徒指導部、担任、学年、さまざまな先生が丁寧に生徒と関わっていることがうかがえる。

◇「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて過去最高となっており、生徒、教員が 90%以上を超えたのはアンケートを始めた頃（H27）以降初めてである。

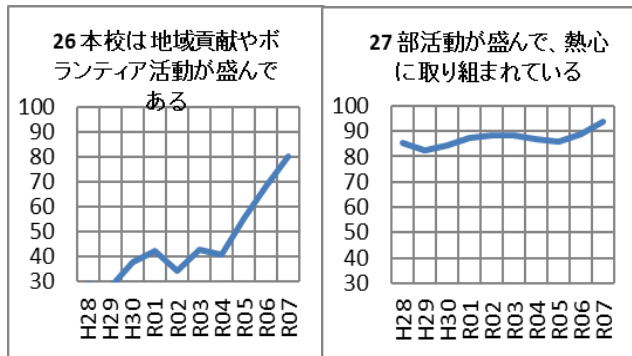
<重点目標>

生徒の「自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」が「学校生活についての先生の指導は納得できる」より数値が高いことから、納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いることがうかがえる。しかし、その差は昨年度が 29.9%だったことに対し、今年度は 23.5%へと減少している。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持を目指しつつ、生徒指導を行う際にも、しっかりと双方が納得できるように説明を行うことで、差をさらに減少させていくことが大切となってくる。

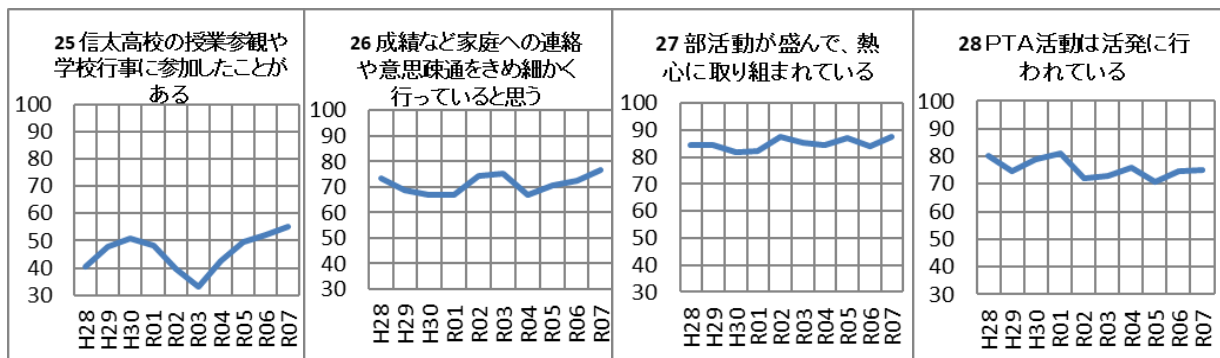
6. 特別活動・その他

<評価>

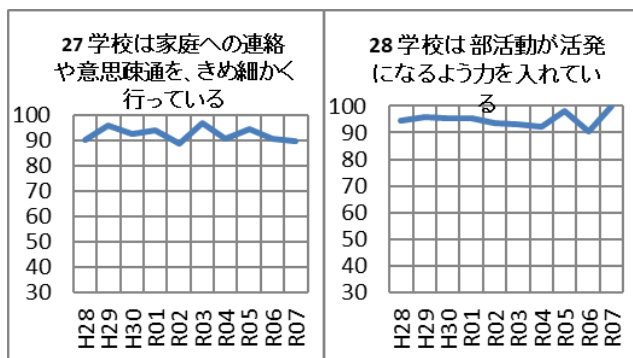
- 生徒・本校は地域貢献やボランティア活動が盛んである 80.5%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 93.7%
- ・部活動に入っていますか (運動部 34.7% 文化部 17.5% 両方 1.1%) 全体 53.3%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 55.3%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 76.7%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 87.8%
- ・PTA 活動は活発に行われている 75.2%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている 89.8%
- ・学校は部活動が活発になるよう力を入れている 100%



<分析>

◇部活動については、生徒、保護者、教員すべてにおいて上昇しており、すべて過去最高となった。

◇生徒の「地域貢献やボランティア活動が盛んである」は12.2%も増加しており、3年連続で上昇し、過去最高となった。

◇「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う」の項目では保護者が上昇している。教員は微減ではあるものの、89.8%と高い値となっている。教員の89.8%に対して保護者は76.7%となり、両者の開きが昨年度18.1%、今年度13.1%となり、減少している。

◇保護者の「授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目は4年連続で上昇しており、過去最高となった。生徒の学校行事の充実度や広報活動の影響から、保護者の関心が高まっていると考えられる。

<重点目標>

部活動の加入率の増加を目指し、より一層部活動の活性化を図る。

保護者への情報提供については、保護者・教員ともに連絡を取りやすいと考えられるさくら連絡網を積極的に活用していきたい。登録～使用について保護者が活用しやすい方法が大切である。また、登録の確認についてシステム化し、教員の負担を減らしていく方法を考えていく必要がある。